

肝動脈化学塞栓療法における CTHA の造影剤注入方法の違いが血管解析精度に与える影響に関する後ろ向き研究

1. 研究の対象

2020 年 4 月 1 日から 2025 年 8 月 31 日までの Angio/CT にて TACE が施行された患者さんのうち 18 歳以上の方。

2. 研究目的・方法

研究目的: Angio/CT 装置で施行された CT during hepatic arteriography (CTHA)において、異なる造影剤注入法で撮像された画像を用い、自動血管抽出 Automated tumor Feeder Detection (AFD) の解析精度および造影剤使用量に与える影響を、後ろ向きに比較検討することを目的とする。

研究方法: 研究対象者の診療録から Angio/CT 画像データを抽出し、解析を行います。

研究実施期間: 研究許可日～2027 年 3 月 31 日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

画像データ: Angio/CT 画像

検査時の年齢、性別、身長、体重、eGFR、検査を行った時の造影剤使用量。

4. 外部への試料・情報の提供

本研究は単機関研究であり、他機関への画像データの共有は行いません。

5. 研究組織・研究責任者

研究組織: 国立がん研究センター中央病院 放射線技術部 放射線診断技術室

研究責任者: 北村 秀秋

6. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なおこの研究が適切に行われているかどうかを確認するためや研究の科学的意義を検討するために、国内外の第三者の立場のものが研究対象者の方のカルテやその他の診療記録、研究データなどを拝見することがあります。このような場合でも、これらの関係者には守秘義務があり、個人情報は守られます。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

住所：〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

電話：03-3542-2511 (代表) PHS: 7184

所属：国立がん研究センター中央病院 放射線技術部 放射線診断技術室

研究責任者：北村 秀秋

研究機関の長 国立がん研究センター 理事長 間野 博行